

ふるさとわがまちづくり

七重自治区(滝見)

◆「滝見」の歴史

滝見町を含む七重自治区は寺下町、滝見町、小呂町の3町からなっています。

ここは明治22年くらいまで七重村と呼んでいました。7つの村、つまり寺下、滝見、小呂の3町と、それに上高町、千鳥町、成合町、手呂町を合わせたものです。現在では、千鳥町と成合町が千鳥・成合自治区に上高町は上高自治区となりましたが、七重自治区は、寺下町、滝見町、小呂町、手呂町の4町でスタートしました。みんなで話し合った結果、最初に呼ばれていた七重村の文字を取って名を付けました。

その後、手呂町は、手呂自治区となり、今の3町からなる七重自治区となりました。

この地はかつて、渡辺領でした。安政の頃、下鷹見村(現在の滝見町)は極度の貧困に陥り、村は破滅の危機に直面していました。このとき、庄屋吉田弥六は意を決し村人たちを集め水杯で別れを告げ、この窮状を訴えるべく、1人で城中へ向かったと言い伝えられています。幸い直訴には、何のお咎めもなく、村の惨状を知った領



主からは土地の一部を貸与されたり、年貢を軽減される程、手厚いお恵みを受けることになりました。おかげで、村は活力を取り戻し、復興することができました。庄屋と村人は、領主 渡辺氏への感謝の行事として「命日祭」には、田畑へ出ることを禁じ、全員が村の地蔵堂に集まり、百万遍の念仏をすべきことを定めたのです。当日の昼食には、おかゆが炊かれており、各自が持参した梅干、漬物などで楽しく食卓を囲んだ思い出が懐かしく蘇ってきます。

時代の推移や経済の進展により、小祭も合併合同祭となり、おかゆ祭りの行事も昭和20年代で中断されています。しかし、町民の志は強く受け継がれており、朽ち果てたお寺も平成10年に新築再建されました。現在も、月2回(毎月7日、24日)は清掃と読経の集いが老人クラブの女性会員により続けられています。



地蔵堂



◆滝見町の課題

現在10世帯、人口48人と小さな町です。世帯数はほとんど変わらず推移していますが、少子高齢化が進んでいます。しかし、区民のみなさんは、思いやりが深く、常に他の人の立場に立って言動をしていただけです。何事においても一つの目標に向かって心を一つにして共に汗を流して頑張っていただけ尊い姿勢に感動しています。この姿勢を忘れず、まちづくりを進めていきたいと思えます。



滝見自治区データ

(HZ0.4 現在)

世帯数：10世帯
：10世帯(昭和52年)
組数：1組
面積：0.697K㎡
自治区たより：「ふれあい七重」年4回発行
回覧：月2回
児童遊園：1箇所
防犯灯設置箇所：6箇所
小学校：上鷹見小学校区
自治区会館：滝見町公民館